

2024 年度第 1 回豊岡市環境審議会 会議録

日 時：2024 年 7 月 16 日（火）9 時 30 分～12 時 00 分

会 場：豊岡市役所本庁舎 3 階 庁議室

出席した委員：山室敦嗣（会長）、西垣由佳子（副会長）、安藤有公子、飯田勇太郎、
川見絵里香、木築基弘、黒田和真、島崎卓也、増原直樹、水嶋弘三、
村田美津子、山下正明

欠席した委員：青柳順子、田原美穂、野世英子

事 務 局：コウノトリ共生部 部長 坂本成彦

コウノトリ共生課 課長 宮垣 均

コウノトリ共生係 課長補佐 谷口久敏、主任 宇田川卓義、
主任技能員 船越 稔

脱炭素推進室 室長 井上浩二

担 当 課：くらし創造部

生活環境課 生活環境係 主査 亀本秀樹

コウノトリ共生部農林水産課

参事 山本隆之 参事 西村文紀

林務・水産係 係長 雨森良太

コウノトリ共生部環境経済課

経済政策係 係長 小操征司、主任 福井亮介、主任 中田智美

1 開会（司会：谷口課長補佐）

- ・会議の公開、傍聴の許可、会議録の公表を確認

2 あいさつ

- ・坂本部長より挨拶

3 委員自己紹介と会長、副会長の選任

- ・委員
- ・事務局
- ・会長、副会長の選任（会長：山室委員、副会長：西垣委員に決定）

4 協議（議長：山室会長）

- ・配布資料の確認

（1）環境審議会の進め方について（事務局）

環境報告書は、年2回の審議でとりまとめを行う。環境審議会で審議するのは第2部「目標とする姿への取組み状況」と第6部「2023年度の環境に関する取組みについて豊岡市環境審議会の意見」で、本日は第2部を審議する。目標像については項目ごとに取組み状況の現状を確認し、3段階で評価を行う。

《評価基準》

- ・よくがんばりました：▲(マイナス評価)より○(プラス評価)が3つ以上多い
- ・この調子でがんばろう：▲より○が1～2つ多い
- ・もっとがんばろう：▲と○が同数、または▲が多い

また、目標像①豊かな森、目標像②里山、目標像③田んぼ、目標像⑧ごみ、目標像⑩環境経済については、担当課が出席し、審議が終わり次第退席する。事務局案としてトピックスを記載している項目もあるため、併せて、それが適当か確認をお願いする。

第6部「2023年度の環境に関する取組みについて豊岡市環境審議会の意見」については、10月に予定している2回目の環境審議会で協議するため、それまでに提出をお願いする。

脱炭素施策に関する審議は、年1回審議会を開催し、脱炭素施策の進捗状況の報告及び意見交換を行う。11月には視察を予定している。仔細については次回の審議会で説明する。

今後の予定については、資料の裏面に今年度の審議会スケジュールの予定を載せている。

(2) 2023年度環境報告書(案)について

【会 長】目標像①～⑩まで順番に事務局からの説明をうけて審議する。

目標像① 手入れの行き届いた豊かな森が、きれいな空気や水を育んでいます

【事務局】今回新たに発電用間伐材の供給量というグラフを記載した。昨年までは朝来バイオマス発電所への間伐材供給量を示すグラフが掲載されていたが、同発電所が発電を停止したため、供給量はゼロだった。豊岡コウノトリ森林組合では、県内外への発電用間伐材の提供をしているため、これを記載した。

また、森林環境譲与税について記載し、トピックスもその事例を掲載した。

2023年度の目標像への評価(案)は、木質バイオマス利用機器の設置が減っていることがマイナス、間伐材の県内外への供給が行われていることがプラスとし、昨年度と同じ評価と判断した。

【会 長】意見や質問があれば発言を。

【委 員】当該グラフに数値を入れてほしい。供給先については赤穂市、鳥取市、丹波市を記載してほしい。また、分収造林事業は現在大きな問題になっている。そのため、この分収造林事業そのものの記載を今後どうしていくのか、市民目線で見た時の書き方を検討してほしい。

【会 長】表記については事務局と検討する。

【委 員】森林環境基金の記述があるが、豊岡市新文化会館の着工と完成予定時期を教えてほしい。10 ページのコラムは読みやすい。モデル森林整備の但東町坂津地区は「手入れの遅れた人工林」とあるが表現的に大丈夫か。

【担当課】新文化会館の着工時期は担当課ではないので回答できない。森林環境譲与税を活用して新文化会館の木質化を図りたいと考えている。「手入れの遅れた人工林」の表現は、地域全体として人工林に手がかかっていない状況が慢性的に起こっているため、市が指導して森林整備を進めるモデルとしてやっていこうということであり、モデル地域として地元の合意も取れているため、問題ないが、表現は検討する。

【委 員】豊かな森と書かれているが、森林の中に竹の問題が入っていない。私が住んでいる地域では、竹林が整備されていない状況を見る。豊岡市として取り組みを考えていないか。

【担当課】竹林整備についても森林整備の一環で考えている。現在県の事業で、例えば里山防災林整備事業という県の事業がある。竹林整備を優先するかは地元の方の意見を聞きながら、竹林整備も森林整備の中で検討していきたい。

【委 員】他の市町村では竹林整備で竹の粉碎機を貸し出しされているが、豊岡市は考えているか。

【担当課】現在、豊岡市では粉碎機の貸し出しは行っておらず、検討していない。例えば、市内のある団体では、自分たちが切った竹を炭にする炭化器を、補助を受けて運用している。伐採し現地に横積みをする方法を市で推奨し

ているが、竹を利用できる方法があればそれを進めていきたい。

【委員】森林環境譲与税は委託料が21年度に増えている。これについて書かれていないがなぜか。

【担当課】委託料については、森林調査の業者委託を実施しているので、その分が増えている。

【会長】委託料については事務局で追記をしてください。

目標像② 里山がさまざまに利用され、関わる人が増えています

【事務局】ご存じの通り奈佐森林公園は閉鎖した。担当課より、利用者数のデータもらったが、掲載するか、ご判断いただきたい。また、2023年度は新型コロナの影響で中止していた来日新緑登山が再開となったが、来日雲海登山はスタッフが集まらなかったので実施とならなかった。それぞれ変更点として追記した。

評価としては、シカの有害被害撲滅大作戦に関する書きぶりを少し修正した。総じて、2023年度の評価は昨年と同様と考えているが、閉鎖された奈佐森林公園の記述を入れるか、皆さんご意見をうかがいたい。

【委員】有害鳥獣駆除数ではシカが増えている。文章中のシカ・イノシシの数は、減少しているとあるが、駆除数なのか生息数なのか明確でないので、表現を見直してほしい。

ヤマビル・マダニの生息域拡大と書いてあるが、本当に拡大しているのか。データはあるか。

年間捕獲数の目標6500頭が県の計画だが、目標値の本質的な意味がわからない。

【担当課】有害鳥獣捕獲数は、豊岡市では6500頭を目指しシカの捕獲を進めている。シカをたくさん捕獲する、追い払うことによって、市内のシカ頭数は減少している。

ヤマビルの生息域拡大に関するデータはない。ヤマビルの拡大はあくまでも肌感覚。

6500頭の目標数字は、県が、シカがどれぐらい県下に生存するかというデータを基に、幾らに減らしたら農林水産物への被害がないのかの分析する中で、出されたものであり、これを目標値にしている。

【委員】目標像が様々に利用され関わる人が増えていますということだが、鳥獣対策のことが多く、里山がどのように利用されているか分からない。

この資料では、里山の具体的なことが伝わってこない。

【担当課】ご指摘の通り、森林整備は利用の具体的方法としてモデル地区を作っているが、里山にはモデル地域を作っていないため、具体例の記述がない。例えば、奈佐の森林公園は閉鎖したが、竹野南森林公園など市民の方が山に入り込める森林公園の管理は進めている。また、加陽水辺公園では森のようちえん「つむぐり」など森林を利用した参加者を募るような事業をしている。

先ずは、山奥に行かなくても、少し道から入った森林の中で色々な体験をしていただくようなことを足掛かりとして広げていくことが必要と考える。

【事務局】目標像②はトピックス的なことがあまりない。例えば、イノシシやシカは適切に駆除されているが、肉や皮が活用されているという次の部分はない。森のようちえん「つむぐり」や西垣さんの但東「野あそびくらぶ」などで里山利用されていることをトピックス的な部分として表現していく。先程の委員の話など含めて今後検討する。

【委員】イノシシやシカの肉や皮を活用するのは難しい問題だと感じている。安心して散策を楽しめる里山が増えているというイメージだが、マダニ、ヤマビルが沢山増えているので安心して散策できない。

2023年度評価に入れ込んだ方がよい。

【委員】シカが山にいるものでなく、身近にいることが当たり前になっている。生活者として何を注意して生活すればよいかなどを、この審議会で触れたほうがよい。

クマとサルも家の近所にいる。一般の市民が会うこともあると思うので、どのように注意して暮らせばよいかを、この報告書で触れられないか。

ラム歩き登山について、参加希望者は多いが、サポートするスタッフが集まらないと聞いた。継続して開催するようなことができないか。

【担当課】人の生活圏に野生動物がたくさん出てきている印象がある。人が里山に入らなくなった、使わなくなったことなど様々な要因が影響している。イノシシ、サル、クマは、人間に被害を加える可能性があるので、どのようにするのが一番良いのかを触れていかないといけない。事務局と相談する。

【事務局】「ラム歩き」については、市が広報活動など協力しているが、開催日の当日に職員が随行するなど難しい。

【委員】市民への獣害対応マニュアルはあるか。

【担当課】様々な生き物に対してパターンがあるため、この場ではすぐにお示しできない。

【委員】シカ、クマ、サル等の問題は、そもそも人が山に入らなかったことでシカが下りてきているということがある。山に動物の食べるものがないことが原因で、山の整備の問題につながる。12 ページ中段のバッファゾーンは、動物とのすみわけを図るために設けられると書かれているが分かりづらい。

【担当課】山と人里の間が茂みや木が大きくなり、隠れながら人里に出てこられる状況が増えている。このようなことをなくすための緩衝地帯としてバッファゾーンの整備をしている。山と人里の間の見通しを良くし、動物が出にくくするのがこの緩衝地帯事業です。
県民緑税とバッファゾーン整備事業を活用して整備を進めてほしいと案内している。あわせて山裾にフェンスを設置している。このフェンスと緩衝地帯で、できるだけ山からおりてこず、山でエサを探すことを狙いにしている。

【委員】バッファゾーン整備面積は近年ゼロだが、これはどういうことか。

【担当課】バッファゾーンを整備する県事業は 2015 年に一旦打ち切りになっている。同じバッファゾーンを整備する事業は、別の事業として地元からの要望を受け進めており、緩衝地帯整備の面積は年々増えている。

【委員】奈佐森林公園の利用者数はキャンプ場の利用者数か。

【担当課】 ご指摘のとおり、キャンプ場の利用者数。

【会 長】 奈佐森林公園は閉鎖したので、記載を削除することについて意見はあるか。

【委 員】 奈佐森林公園については今後の利用再開も難しい。別の場所があれば、記載してはどうか。

【会 長】 奈佐森林公園の利用者数については削除する。
データを新しく差し替えできるように準備をしたい。

目標像③ 使われていない農地の利用が進み、生きものの豊かな田んぼが増えています

【事務局】 目標像③は、2023 年度のデータが、前年度と同じような推移だったため、記載文章はそのままとしている。全体販売額における「豊岡産物販売額」はデータの反映が間に合わなかった。次の委員会では、2023 年度のデータを記載する。

評価については、環境創造型農業が目標値に対して作付面積が伸び悩んでいるのでマイナスの印象があるが、一方、コウノトリ育む農法の拡大や、農家数の減少割合と比較して、環境創造型農業の作付面積は現状を保っていることを踏まえて、プラスとした。

よって、2023 年度の評価としては、昨年度と同様と評価。

【委 員】 休耕田のデータが無く、耕作田も 5 年間でかなり減っている。対して、ビオトープ水田の面積は拡大しているが、前年度 0.6ha 増。農業の減少や高齢化、後継ぎがいない現状を考えると、この目標像に書かれていることと乖離しており、厳しいと思う。

今年度の評価はこれでいいが、長期的には次の計画を考えないと、減少傾向が強く、環境審議会だけで議論することではない。

地産地消で、給食で豊岡産の野菜が使われていることが非常に良い。30%以上を 5 年連続でということなので、次の目標を考えて 35%なり 40%なり、もっと高くしてはどうか。

【関係課】 休耕田のデータが無いのは、農林業センサスという 5 年に 1 度の国の統計で、2020 年度から耕作放棄地の面積把握がなくなったため。減っている耕作面積とビオトープとの相関は、経営効率の減少や農家の減少について、今後の大きな農政問題として検討する必要がある。

学校給食の豊岡産野菜利用率は、教育委員会の方の目標なので回答できないが、毎年目標の3割を超えている中で、それ以上伸びていないのが生産者の問題であれば、農林水産課の対応だと思う。その場合は、JAと協力して、引き続き、この数字の維持と、さらなる目標率の向上を目指していきたい。

【委員】コウノトリ育む農法など環境創造型農業の維持については、JAも政策的に取り組んでいる。

各地域で様々な特別栽培米が栽培されているが、豊岡市含め但馬地域では、特別栽培米「つちかおり」という名前でコシヒカリを栽培している。近年、消費者は安全安心なお米を求め、コウノトリ野生復帰のストーリー性の理解も広まっており、JAでは特別栽培米を、コウノトリ育む農法に切り換えることを行っている。農家数の減少に対しても、農地を集積して育む農法の栽培面積を増やしてきた。

JAの中期戦略の中で、この地域が有機の郷になるよう、2050年までに20%以上、最終的には50%以上を有機農法にしたいと考えている。コウノトリを野生復帰した地域としてしっかり取り組んでいきたい。

また、給食のお米を減農薬から無農薬に変えるため、一昨年から3年計画で90トンまで増やし、全小中学校が切り替えられるように取り組んでいる。東京や沖縄へ出荷しているが、地元の方にもっと食べていただきたい。まずは地産地消。そして販路が全国、世界に広がり、環境を守るためのコウノトリ育む農法が増えていく。これは周りの方々の協力がないとできない。

【委員】地元の消費が低いのは、コウノトリ育むお米を小売店で購入する方が少ないから。消費されるお米のうちコウノトリの育む農法のお米が買われていない。量販店で販売されている有名産地や安いお米の購入量が多い。先ず地元の方にコウノトリ育む農法のお米を買っていただきたい。コウノトリ育むお米の販売量を伸ばすため、地元から進められることが望ましい。

【委員】15ページ上段の一発肥料について、JA、全農は指針を出して、一発肥料に頼らない農業を目指しているが、農協を通さない生産者は結構使用している。この調査はできてないと思うが、流出が問題となっているという表記だけでなく、事務局で調べられないか。

【担当課】民間肥料の購入は把握ができない。この問題は、昨年の審議会でも出た。

この問題の表現や取り扱いを事務局と協議したい。

【会 長】今年度から農水省が地域計画を策定することが義務化された。目標像③は、トピックスがないので、地域計画の進捗状況やサポート体制がなどをトピックスで書いてもよいのではないか。

【担当課】地域計画は法改正があり、昨年度から今年度にかけて、今後の農地の利活用についての計画を全集落で作成するもの。現在、地区説明会を行い、各集落で作成作業を行っている。ただ、地域計画を作る約 260 集落のうち、現時点で策定できているのが 26 集落で約 1 割という状況。この状況は、どこの市町でも同じと思う。この環境報告書の出るタイミングでどこまで公表できるか、事務局と相談したい。

目標像④ あちこちの川や海辺で、子どもたちの楽しむ声がきこえてきます

【事務局】小学校の統廃合に伴う学校数の変更。清掃活動は徐々にコロナ禍以前の状態に戻りつつあることを記載した。また、魚礁も設置が再開されたことを記載した。

2023 年度の評価は、子どもたちの川の体験活動が定着していることをプラスとした。実施小学校数の減少は、統廃合によるもので、活動自体は定着しているとしてプラスにとらえた。また、漁礁設置の再開もプラスとした。その結果、評価として昨年度より一段階アップしたと考える。

【委 員】「河川の稚魚・貝放流補助金」のグラフだが、円山川漁協と竹野川漁協を分けて記載することは可能か。

【担当課】魚種別含め分けることは可能。

【事務局】「河川の稚魚・貝放流補助金」のグラフは魚種別で良いか。

【会 長】「河川の稚魚・貝放流補助金」の表記は次回審議会までに検討し修正する。

【委 員】不法投棄について、昨年も同じ意見を述べたが、量そのものがわかる表記が必要と思う。評価の本文で「さまざまなごみが捨てられています」では、「大型ゴミは減っているが空き缶は減っていない」との評価はできない。

【事務局】担当課に聞いたところ定量的な評価はしておらず、回収した職員からの聞き取りで評価しているとのこと。

【会 長】事務局と相談して表記を考える。

【委 員】広報等で周知できないか。

【担当課】広報は今からでは間に合わないが、防災行政無線やホームページ等での周知を検討する。

目標像⑤ コウノトリも住める豊かな生態系が、バランス良く保たれています

【事務局】コウノトリの野外個体数は順調に増加し、2023 年度末時点で、市外 21 市町での営巣が確認されている。また、湿地ボランティアの人数もコロナ禍以前並みに回復している。トピックスとしては、「コウノトリ育む中筋の郷」と「コウノトリ育む祥雲寺水田」が、民間等の取組み等によって生物多様性の保全が図られる区域を国が認定する「自然共生サイト」に認定されたことを挙げている。

2023 年度評価は、評価理由の変動もないことから、昨年度と同評価と考える。

【会 長】後に発言の機会を設けるので、次の説明を先に行う。

目標像⑥ さまざまな世代の人々が、地域の祭りや行事を楽しみ、未来へとつなげていきます

【事務局】小学校の統廃合に関する数値の修正と歴史博物館の公開講座参加人数の対象人数の見直しを行った。また、今まで地域コミュニティ組織活動事例集として活動を冊子でまとめられていたが、2023 年度からこれをやめて各コミュニティのホームページで紹介されることになった。各委員で、この目標像で紹介する内容等があれば事務局に教えてほしい。

2023 年度の評価としては昨年度と同評価と考えている。

【会 長】青柳委員が支援されているので、聞き取りをして下さい。

目標像⑦ 子どもたちが、身近な地域の自然についてよく知り、大切にしています

【事務局】コウノトリ KIDS クラブの会員数は、コロナ以前の水準に回復し、出張田

んぼの学校の実施回数も戻りつつある。統廃合された学校数を考えると、すでに戻っているといえる。

トピックスは、市立田鶴野小学校と新潟県佐渡市立行谷小学校の児童がオンラインによる交流を行ったことを取り上げた。これは 2025 年の大阪・関西万博開催を見据え、コウノトリやトキの野生復帰の取り組みなどを推進する関連事業として行われた。

2023 年度の評価としては昨年度と同評価と考える。

【会 長】「市内各小学校区のビオトープ水田面積」がマイナスというのはなぜか。

【事務局】復田等でビオトープでなくなったものや、事情によってやめられたものがある。昨年はこれ以外に、開発行為や管理者が管理できないという理由で取りやめた事などがある。

目標像⑧ 市民みんなが、ごみの減量化を実践し、1人あたりの排出量が徐々に減っています

【事務局】資源ごみの搬入量や集団回収量は減少傾向が見られるが、これはスーパーマーケット等の施設でのプラスチック容器や紙パックの回収、リサイクル業者による古紙回収ボックスの設置等の資源ごみの回収手段が多様化していることが一因。

2023 年度の評価としては、クリーン作戦による参加人数とごみの回収量が増加していることから、これをプラス点とした。

【委 員】電気式生ごみ処理機補助金に関するデータはあるか。

【担当課】ここ数年の補助金実績等を事務局に報告する。

目標像⑨ 市民みんなが、楽しみながら省エネ行動を実践し、再生可能エネルギーの利用も増えています

【事務局】コバスの利用者数がコロナ禍以前の水準に回復しつつある。

トピックスとしては、豊岡ノーマイカーデーの実績として、その数字を 2023 年度版に修正した。

2023 年度の評価は昨年度と同評価であると考ええる。

【委 員】「豊岡市所有大規模太陽光発電所」の表があるが、右のスペースに、例えば、今年度の CO₂ 削減量など記載すると、CO₂ に関する記述が増え

る。また今後、電気自動車を購入する人が年々増えるが、購入者が家に太陽光発電を設置して充電すれば、概ね自然エネルギーで賄っていることになる。購入者の増え方やその方が太陽光発電設置しているかなどにも着目し、情報収集に努めて欲しい。

【事務局】太陽光発電所で、それぞれの燃料に対するCO₂削減量を記載する。併せて、EV購入者に対する啓発を進めたい。

目標像⑩ 環境をよくすることで経済が活性化され、交流も広がっています

【事務局】環境経済認定事業者数は今年も5事業者が認定され、これまで累計92事業者が認定されている。コウノトリ文化館の来館者数は減少しているが、これは観光形態の変化によるもの。団体客は減少しているが個人の方や視察、外国人客は逆に増加している。それらの方は環境意識が高く、コウノトリ文化館を高く評価している。その裏付けとして、1人当たりの環境協力金の額を掲載した。
2023年度の評価は、コウノトリ文化館に対する見解を追加した。

【委員】目標像⑤「コウノトリが生息できる環境の整備」を「コウノトリも生息できる環境の整備」に修正するように。

【事務局】修正する。

5 その他

- ・環境審議会の視察について
- ・委員報酬の振込について

6 閉会

- ・西垣副会長あいさつ